

未来へ新たな一歩を

県トラック協会50周年記念式典



行動する協会に——と挨拶する重久会長
＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

が出席して、節目の年を祝うとともにさらなる発展を誓った。

式典では、初めに大庭雄九郎運輸局長から重久会長に感謝状を授与し、その後、永年勤続役員・職員表彰が行われ、一人ひとりに顕彰状と記念品が贈られた。引き続き、重久会長が「昭和28年11月に社団法人として発足以来、諸先輩の努力と関係各位のご指導、ご支援により現在、会員事業者795社、保有車両約1

とりに顕彰状と記念品が贈られた。引き続き、重久会長が「昭和28年11月に社団法人として発足以来、諸先輩の努力と関係各位のご指導、ご支援により現在、会員事業者795社、保有車両約1

また、記念式典の席上では、同協会が昭和58年から交通遺児救済事業基金援助活動の一環として、毎年、県交通被災者たすけあい協会(米盛庄司理事長)に献金しており、今回、創立50周年を記念し、重久会長から米盛理事長に献金50万円を手渡

県交通被災者協会へ献金も

また、来賓の大庭九州運輸局長、須賀龍郎県知事(代読・脇田稔知事)、稲葉一夫県警察本部長、吉道正夫鹿児島労働局長らが「長年培われてこられた英知を生かして、業界のさらなる繁栄のため尽力を」「今後ともトラック業界ひいては県民経済の浮揚と県民生活のより一層の向上に努力を」などとそれぞれ祝辞を寄せた。

感謝状を授与される重久会長(左)

16年県労働災害防止研修会 災害ゼロでも油断禁物



安全対策をおろそかにしてはならない——と話す木村部会長＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

県労働基準協会は17日、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で16年県労働災害防止研修会を開き、管理監督者ら約200人が参加、労働安全衛生マネジメントシステムや安全管理について学んだ。

研修会では冒頭、木村潤典県労働基準協会安全労働衛生部会長が、「最近

越パルプ工業(株)川内工場安全管理部長が「吾社の安全管理」、白井瀧雄中央労働災害防止協会九州安全衛生サービスセンター安全管理士が「労働安全衛生マネジメントシステムとは」、田口信教鹿児島大学教授が「訓練と安全管理」でそれぞれ講演を行った。このうち、玉利安全衛生課長は、第10次労働災害防止計画の目標などを説明。この中で、「災害ゼロが危険ゼロではない」「リスクマネジメントの管理及び安全性管理の水準を上げることが大事である」「労働安全衛生マネジメントシステムの導入を図ってほしい」等と話していた。

工期短縮、環境配慮

県ビルリフォーム協組

県ビルリフォーム協同組合(大平重隆理事長)は16日、県立額娘高等学校で現場パトロール並びにGNスーパーピンネット工法の施工検査を実施、組合員をはじめ県内各ビルリフォーム協同組合連合会九州地区協議会の技術委員、県担当者ら約30人が参加して、同工法の優れた性能を確認した。

同工法は、老朽化したRC構造体における外壁などの既存仕上



優れた性能を証明した検査
＝額娘町の額娘高等学校で

大平理事長は「これからは、経年構造物をいかに良い状態で維持していくかがポイント。その中で、同工法は環境面はもちろんランニングコスト面においても非常に優れた工法。今後組合としては、作業の健全性、確実性を確保するために全外壁改修業者に呼び掛け、早急にピンネット委員会を発足し、施工指導から施工管理まで一貫管理システムを確立させ、建築物の安全な維持保全に役立てて頂き安心して社会環境づくりに貢献していきたい」と抱負を述べた。



手際よくごみを拾い集める参加者
＝鹿児島市の同本社付近で

住民に感謝し道路美化

MBC開発が奉仕活動

MBC開発(株)(鹿児島市)は17日、鹿児島市の県道沿いでボランティア活動を実施、工事等で地域住民に協力してもらっていることに感謝の意を込めて、空き缶やごみ拾いなどを行った。

同日は、同住宅事業部員やMBC開発施工協力会の木造部員など15人が参加。作業を前に、里良男常務が「日頃から地域住民に対してご迷惑を

実施。参加者はごみ袋を持ち、歩道や路傍樹の周りや空き缶、ペットボトル、タバコの吸殻などを手際よく拾い集めた。

同活動は、地域社会との共生を目的に14年から実施しているもので、今回が3回目。作業に参加した渡辺尚昭住宅事業部副部長は「今後も社会奉仕活動を通じていき、地域に密着した地元住民に愛される企業を目指していきたい」と語った。

なお作業終了後、荒田八幡宮近くの同社現場で浴槽の設置に関する講習会も開かれた。